

会 告

平成 18 年度農業土木学会大会講演会の開催について (第 2 報) 	84
「農業土木学会学術基金」の募金について.....	86
平成 18 年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について	87
第 38 回中央研修会について 	87
第 11 回中央研究集会について 	87
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....	88
農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行延長について.....	88
土地改良事業設計指針「ため池整備」の発行について.....	89
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」の配布について	89
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局 (投稿先) の韓国移転のお知らせ.....	90
農業土木学会誌への投稿お待ちしております! 小特集以外の投稿も歓迎します.....	92
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「農業土木学会誌」平成 19 年秋季~冬季用の表紙写真の募集	93
新シリーズ「水利遺産探訪」スタート 皆様のご投稿を大募集中	94
国際水田・水環境工学会 2006 年 (第 4 回) 国際研究集会の開催について 	95

学会記事	96
------------	----

農業土木学会 (本部) 行事の計画

農業土木学会 (本部) 行事について, 下表のように計画しています。奮って参加下さるよう, お待ちいたしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム, または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 18 年 3 月 15 日	行事企画委員会 (独) 農業工学研究所	第 11 回中央研究集会 	21 世紀における農村地域資源 の管理の方向 (仮)	農林水産技術 会議事務局筑 波事務所	74 巻 2 号 3 号
平成 18 年 3 月 22 日	行事企画委員会	第 38 回中央研修会 	農地・農業用水等の資源保全 と新しい地域づくり	東京大学弥 生講堂	74 巻 1 号, 2 号 3 号
平成 18 年 8 月 8~11 日	大会運営委員会	平成 18 年度農業土木学会大会講演会 		宇都宮大学	73 巻 12 号 74 巻 1 号 3 号

農業土木学会関連行事予定

平成 18 年 9 月 7 日, 8 日	農村計画研究部会	平成 18 年度第 28 回現地研修集会 		熊本テルサ ホール	74 巻 2 号
-------------------------	----------	--	--	--------------	----------

第 74 巻 4 号予定

展望: 農村の景観を考える: 角田 豊

小特集: 美しい里づくり 景観法施行を背景として

住民主体で策定される集落地利用計画の問題点: 小池 聡

農村景観の心理評価と視覚行動から見た仮想行動特性: 山本 徳司

アンケート調査による農村景観の評価と保全に関する考察: 内藤 馨他

地域振興に貢献する菜の花景観の保全: 服部 俊宏

伝統的町並み整備活用計画におけるワークショップの展開: 和家 利代他

技術レポート

北海道支部: 海食崖が発達した農地海岸保全対策の長期的評価: 山下 薫他

東北支部: NPO と行政との協働による「春の小川体験学習会支援」について 春の小川づくり推進事業 : 花田 修一

関東支部: 環境配慮の研究について: 山本麻美子

京都支部: 新堀川潮止水門の構造検討について: 川邊 昭弘他

中国四国支部: ため池改修における柔構造底樋の設計施工について: 根馬 清志

九州支部: 自然石を用いた頭首工の設計について: 穴見 陽他

講座: 水土文化への誘い (その 2) 水土文化を読み解く : 広瀬 伸

小講座: 景観農業振興地域整備計画について: 林 康夫

私のビジョン: これからの景観: 九鬼 康彰

平成18年度農業土木学会大会講演会の開催について(第2報)

平成18年度農業土木学会大会運営委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成18年度農業土木学会大会講演会は、平成18年8月8日(火)、9日(水)、10日(木)の3日間、宇都宮市の宇都宮大学峰キャンパスで開催されます。また、11日(金)には、現地研修会を実施する予定です。

本報では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。講演会での講演申込みについては、本誌2006年1月号会告をご覧ください。

なお、講演発表を申込みされた方も、別途、参加の申込みが必要です。

ご注意いただきたい点

平成18年6月30日(金)までに参加申込みをいただき、7月25日(火)までに参加費の入金が確認された場合に限り、参加費の割引があります。

6月30日(金)までに予約参加申込みをいただいた方全員に、CD-ROM版講演要旨集を、大会の約2週間前までにお届けします。

印刷製本版の講演要旨集は、6月30日(金)までの申込み数だけしか作成しません。締切日以降の予約はできません。

プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演発表の概要(200字)などを集録した大会概要集は、大会当日、受付にて参加申込み者全員にお渡しします。

インターネットによる参加の申込みを受け付けます。農業土木学会のホームページをご参照のうえ、ご利用ください。

1. 開催要領

(1) 開会式：8月8日(火)9:30~12:00

会場：宇都宮大学多目的ホール

宇都宮市峰町350

受付開始：8:45~

(2) 交流会：8月8日(火)18:00~20:00

会場：ニューイタヤホテル3F「天平」の間

宇都宮市大通り246

(3) 講演会：8月8日(火)、9日(水)、10日(木)

会場：宇都宮大学農学部棟および共通教育B棟

宇都宮市峰町350

詳細は、プログラムとともに6月号に掲載する予定です。

(4) 現地研修会：8月11日(金)

A：那須野が原開拓の歴史探訪コース 那須疏水開削にはじまる那須野が原開拓の歴史を那須野が原博物館や開拓にまつわる史跡、国営事業等により整備された施設を見学し、農業土木が農業発展にいかにか寄与したかを紹介します。

【8:50 JR宇都宮駅(東口)集合 9:00出発 17:00頃JR宇都宮駅着】

- ・那須野が原博物館(那須塩原市)
- ・サテライト見学(那須疏水さわやかルート)
- ・道の駅「湯の香しおばら」
- ・小水力発電施設・岩崎頭首工他見学(那須塩原市)

B：農村環境と地域資源活用コース 農村環境を守るための取り組みや基盤整備事業を期に地域資源を活用した都市・農村交流を実践している地区を巡り農業土木と地域の農業・農村振興との関わりを紹介します。

【8:50 JR宇都宮駅(東口)集合 9:00出発 17:00頃JR宇都宮駅着】

- ・西鬼怒川地区のグラウンドワーク活動(河内町)
- ・有機物リサイクルセンター美土里館(茂木町)
- ・ツインリンクもてぎ(茂木町)
- ・都市と農村の交流・清原南部地区(宇都宮市)

*各コースとも、経路は変更になる場合があります。また、申込みが少ないときは中止する場合があります(最少催行人員：約20名)。

2. 参加費用

(1) 参加費用と内容：次の表をご覧ください。

	予約申込		当日申込			
CD-ROM版講演要旨集	全員配布		当日配布			
大会概要集	当日配布		当日配布			
申込締切日	6月30日(以降は受け付けません)		大会当日			
支払締切日	7月25日		大会当日			
印刷製本版講演概要集	希望者のみ	なし	なし			
会員種別	一般	学生	一般	学生	一般	学生
参加費	¥9,500	¥7,500	¥5,000	¥3,000	¥7,000	¥5,000

(2) 交流会 一般 6,000円 学生 3,000円

(3) 現地研修会 A、Bコースいずれも5,000円(昼食代1,000円を含む) 事前予約制とします。申込み締切は6月30日(金)。

3. 申込方法

参加申込みは、ホームページまたはFAXにて受け付けます。業務簡素化のため、ホームページからのお申込みにご協力ください。

なお、電話でのお申込み・お問合わせはご遠慮ください。参加申込み後に変更、取消が生じた場合は、参加申込書（FAX用）の連絡事項欄に「変更」または「取消」と大書し、修正事項を明記してFAXにて速やかにお知らせください。

(1) ホームページによるお申込み

農業土木学会のホームページからお入りください。
<http://www.jsidre.or.jp/taikai/>

(2) FAX によるお申込み

農業土木学会ホームページからFAX用参加申込書をダウンロードし、下記宛にお申込みください。
 近畿日本ツーリスト(株)宇都宮支店 気付 農業土木学会
 大会受付係
 FAX 028 638 5576

4. 支払方法

クレジットカードによるお支払いに対応いたします。

お振込みの方は7月25日(火)までに下記の指定銀行口座へお振込みください。この場合、振込手数料は振込人の負担となります。

口座：三菱東京UFJ銀行 振込第二支店 普通口座

口座番号 0723839

近畿日本ツーリスト株式会社(キンキニッポンツーリストカブシキガイシャ)

6月30日(金)までに参加申込みされ7月25日(火)までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込み扱いの参加費を申し受けます。

なお、会社経費・公費等によるお支払いにも対応いたしますので、ご希望がありましたら、参加申込みの際に連絡事項欄にご記入ください。その際の参加費は当日申込と同様の扱い(講演要旨集なし：一般7,000円、学生5,000円、講演要旨集あり：一般11,500円、学生9,500円 <事前送付希望の場合は別途送料500円>)とさせていただきます。

お支払いいただいた参加費等の払戻しには、原則として応じかねます。

5. CD-ROM 版と印刷製本版の講演要旨集の事前送付について

(1) CD-ROM 版講演要旨集

6月30日(金)までに参加申込みをされた方全員に、CD-ROM版講演要旨集を、大会の約2週間前までにお届けします。

(2) 印刷製本版講演要旨集

印刷製本版の講演要旨集を申込みされた方には、大会当日、受付にてお渡しします。ただし、参加申込みをされ、7月25日(火)までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込み扱いの参加費(一般11,500円、学生9,500

円)を申し受けます。また、事前に送付を希望される方は、参加申込みの際にその旨、ご明記ください。1部につき500円の送料をいただいたうえで、大会の約2週間前までにお届けします。

6. 宿泊等の斡旋

本大会の参加申込み受付業務を委託している近畿日本ツーリスト(株)宇都宮支店が、宿泊手配のお手伝いをしています。宿泊に関するご案内は、すべてホームページ上で行います。また、コンピュータによる自動在庫管理を行いますので、ホームページからの申込みに限らせていただきます。学会ホームページのリンクをご覧ください。

7. 昼食

講演会場での昼食時の弁当販売はいたしません。大学生協および周辺の食堂、飲食店等をご利用ください。

8. 会場までの交通案内

(1) 開会式・講演会：

宇都宮大学峰キャンパス 宇都宮市峰町 350

JR 宇都宮駅(西口)から

JRバス(西口バス乗り場3番)・清原台団地、清原球場、祖母井(うばがい)、茂木、陽東桜ヶ丘行など

東野(とうや)バス(西口バス乗り場14番)・真岡、益子、海星学院、清原球場行など

「宇大前」下車 日中10~20分間隔 約15分 200円

JR 宇都宮駅(東口)から タクシー 約10分 約800円

(2) 交流会：ニューイタヤホテル3F「天平」の間

宇都宮市大通り246

JR 宇都宮駅(西口)から徒歩約5分

当日は、大学から会場までバスを手配します。

9. 問合わせ先

(1) 参加申込み・宿泊等に関するお問合わせ

近畿日本ツーリスト(株)宇都宮支店

農業土木学会受付係 担当：山田、山崎、長谷川、大塚
 〒320 0801 宇都宮市池上町2-2

TEL 028 633 2151

FAX 028 638 5576

E-mail:utsunomiya-d@or.knt.co.jp

(2) 大会全般に関するお問合わせ

平成18年度農業土木学会大会運営委員会事務局

〒321 8505 宇都宮市峰町350

宇都宮大学農学部 後藤章

TEL 028 649 5497

FAX 028 649 5507

E-mail:goto@cc.utsunomiya-u.ac.jp

平成 18 年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について

学術基金運営委員会

農業土木学会では、平成 3 年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成 18 年度は、規定第 4 条(1)の「特定の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業土木学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書様式をダウンロードして、E mail で学会事務局までお申込下さい。

記

1. 援助の対象：農業土木学会の会員（学生会員含む）、または会員によって構成されるグループ
2. 援助方針
 - (1) 農業土木に関して特定の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
 - (2) 平成 18 年度中（平成 18 年 4 月から 19 年 3 月）に海外で

開催される国際学会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていない場合でも、申請は受け付ける。この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

(3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1 件当たりの援助金の目安 1 件 15 万円程度を限度とする。
4. 申請締切 平成 18 年 3 月 22 日
5. 報告の義務 援助を受けた者は、学会誌に記事を投稿する。
6. 申込み・問合せ先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社) 農業土木学会学術基金運営委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail:suido@jsidre.or.jp

平成 17 年度第 38 回中央研修会

農地・農業用水等の資源保全と新しい地域づくり

～ふるさとの資源の再発見～

行事企画委員会

農業土木技術者継続教育認定プログラム



本年度の中央研修会は、下記により開催されます。多数のご参加をお待ちしております。お申込みは学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp>) の申込様式をご利用下さい。

記

1. 主催 農業土木学会行事企画委員会
2. 期日 平成 18 年 3 月 22 日(水) 10:00～16:30
3. 場所 東京大学弥生講堂一条ホール(文京区弥生 1-1-1)
4. プログラム(予定)
 - 10:10～11:50 基調講演 「ふるさと資源の再発見」
東京大学大学院教授 林 良博
 - 13:00～14:00 「農地・水・環境保全向上対策について」

農林水産省農村振興局事業計画課長 角田 豊

14:00～15:00 「資源保全に関する技術開発の現状と方向」

(独) 農業工学研究所地域資源部長 高橋 順二

15:15～16:30 「いただきます」がつなぐ「いのちの環」～食農教育を進めるために～

作家・エッセイスト 森 久美子

5. 定員 150 名程度

6. 参加費 一般 5,000 円、会員割引 3,000 円、学生会員割引 1,000 円

7. 申込・問合せ先 行事企画委員会担当 吉本

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

平成 17 年度第 11 回中央研究集会

21 世紀における農村地域資源の管理の方向

(社) 農業土木学会・(独) 農業工学研究所

農業土木技術者継続教育認定プログラム



現在、農村地域においては、過疎化、高齢化の進行が進んでおり、従来から農村地域で維持、保全されてきた農業水利施設、農地、農村環境・文化資源の荒廃が懸念されています。平成 17 年度中央研究集会では、農業工学研究所が主体に実施した「多面的機能の維持向上のための農業水利施設の維持管理体制の確立」に関する研究成果を広く行政担当者、研究者および現場で実際に施設を管理している土地改良区関係者等に紹介します。多数の参加をお待ちします。

能の維持向上のための農業水利施設の維持管理体制の確立」に関する研究成果を広く行政担当者、研究者および現場で実際に施設を管理している土地改良区関係者等に紹介します。多数の参加をお待ちします。

記

1. 主催 (社)農業土木学会・(独)農業工学研究所
2. 日時 平成18年3月15日(水)13:00~17:00
3. 場所 農林水産技術会議事務局筑波事務所農林ホール
茨城県つくば市観音台2-1-9
4. 参加費 無料
5. プログラム(予定)
 - (1)話題提供「農業水利施設の維持管理の方向」
 - (2)プロジェクト研究の概要
 - (3)研究報告
 - 1)社会経済情勢の変化が農業水利施設の維持管理組織及び維持

- 管理水準に与える影響の解明
- 2)農業水利施設の維持管理水準の低下が下流域での洪水防止、水質等に与える影響の定量化
- 3)農業水利施設の維持管理組織の再編手法及び財政的支援手法の確立
- (4)総括
6. その他
 - (1)参加希望者は当日受付へおいで下さい。
 - (2)宿泊については各自ご手配願います。
 今回の研究集会は、農業工学研究所研究会(3月15日~16日に開催)との同時開催となります。ご了承下さい。

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い

農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しました。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害、に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備することとしました。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるように、事前に皆様方の登録をお願いしておくことといたしました。登録を希望された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

専門分野： 水理， 水文・気象， 土壌物理， 土質， 地質・地理， 環境， 地域(農村)計画， 一般， 灌漑排水， 農地造成， 農地整備， 農地保全， 水産土木， 材料・施工， 農業機械， 集落排水， その他

なお、登録頂いた個人情報、は、災害対応調査団にのみ活用し、適切に取扱います。

農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行延長について

農業土木学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

行事企画委員会と継続教育機構は平成17年10月より、通信教育の試行を行ってきました。試行に参加いただいた会員各位に感謝申し上げます。試行に多数の会員が参加いただき平成18年4月より本格実施を行う予定でしたが、残念ながら参加者は少数に留まりました。そのような状況の原因を探るため、通信教育制度に関するアンケートを実施したところ、参加希望者は多いものの、

通信教育制度が多くの方に認知されていないこと、また、制度についての正確な情報が不足していることが分かりました。

そこで、平成18年4月から10月までの6カ月間試行を延長することとしより広く情報を伝えることといたしました。延長試行期間中いつからでも参加可能です。是非、通信教育にご参加いただきたく、お願い申し上げます。

1. 参加会員の募集

この試行に参加をご希望の学会員の方は、農業土木学会のホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）にある**参加申込書**に必要事項を記載してメール（E mail:cpd@cpd.jsidre.or.jp）あるいはFAX 03 5777 2099へ送信してください。

今回の試行が成功し、本格運用へ移行するためには、多くの会員の参加が必要です。しかし現在、小数であり本格実施のために、周囲の方に声をかけていただき、多数のご参加をお願いします。

なお、これを機会に農業土木学会、機構への入会を希望される方は、同様にホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>）に申込み様式がありますので、ご記入の上お申込み下さい。

2. 申込期限

この試行への参加は、今年からでも可能です。短期間であっても参加し、意見をお寄せ下さい。

3. 試行の事務局

試行の事務局は機構の評価委員会内部に設置する試行部会および機構事務局が担います。

4. 試行の内容

毎号学会誌に3カ月前の学会誌の報文を主体に機構試行部会が作成した問題を掲載します。

問題は択一式とし、毎回20問を掲載します。一つの報文から数問、報文の事実的内容から問題を作成します。

回答は、メールにて機構へ返信し、採点結果から7割正解で1CPD、満点で1.5CPDが与えられ、継続教育記録として登録されることとなります。

回答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 試行の評価と本格運用への移行

試行の結果より、課題、改善点等を把握し、修正を加えた上で本格運用に移行したいと考えています。

土地改良事業設計指針「ため池整備」の発行について

このたび、標記土地改良事業指針が改定され、平成18年2月に発行されました。判型、ページ数、価格は下記のとおりです。購入ご希望の方は下記までお申込み下さい。なお、改定の趣旨は、74巻2号、p.62を参照下さい。

記

1. 土地改良事業設計指針「ため池整備」

A4判 約230ページ

定 価 3,000円（消費税内税、送料学会負担）

2. 申込方法

役所等で、公用として購入される場合

FAXでお申込下さい。様式は問いません。

ご希望部数、送付先住所、請求書の宛名をご記入下さい。

個人、会社で購入される場合

現金書留：書籍代と書籍名、冊数を書いた文書をご同封下さい。

郵便振替(00160 8 47993)：振替用紙の通信欄に書籍名、冊数をご記入下さい。

3. 申込先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業土木学会事務局 担当：河合

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006年3月末にはVol.4 No.1が発行予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動物植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）

⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

水田農業を通じた国際的な研究交流，情報交換の場として，皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと，会員には国際ジャーナルが，無料で配布されます。

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

発刊スケジュール：2003年3月創刊，以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員 12,000円/年/4冊（送料等学会負担）

学生会員（院生含む）8,500円/年/4冊（送料等学会負担）

申込先：農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ：http://www.jsidre.or.jp

入会のお申込みは，学会 HR（http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm）の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ，メールまたは FAX でお申込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では，2003年1月に日本，韓国，台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して，新たな国際学会「国際水田・水環境工学会；International Society of Paddy and Water Environment Engineering」を設立し，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊，2006年3月末には Vol 4 No. 1 が発刊予定です。

我が国においても学術誌の評価に，SCI（Science Citation Index）の IF（Impact Factor）が利用されており，本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また，世界13カ国から Editor（13名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は，Review，Article，Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに，SCI 獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが，**投稿料，掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

編集事務局の移転：2003年1月の学会設立以来，農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが，2006年1月1日からは新 Editor in Chief；中野芳輔九州大学教授の下，韓国農業工学会が今後3年間（～2008年12月31日まで），編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い，Editorial Panel の構成メンバー（編集体制）および新投稿先が下記ようになります。

ただし，2005年12月末までに投稿された原稿は，日本（農業土木学会）の責任において進められ，Acceptされたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

新投稿先：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment Engi-

neering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は，水田農業地帯における灌漑と排水，土壌保全，土地資源や水資源の保全と管理，水田の多面的機能，農業政策，地域計画，バイオ環境システム，生態系の保全，水田保全，田畑輪換等 である。

編集体制 2006.1.1～2008.12.31)

• Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, Japan

• Editors

Prof. Dr. Sietan CHIENG

Department of Civil Engineering, University of British Columbia, Vancouver, Canada

Prof. Dr. Budi Indra SETIAWAN

Department of Agricultural Engineering, Bogor Agricultural University, Bogor, Indonesia

Prof. Dr. Mauro GREPPI

Institute of Agricultural Hydraulics, University of Milan, Milano, Italy

Prof. Dr. Shuichi HASEGAWA

Graduate School of Agriculture, Hokkaido University, Sapporo, Japan

Prof. Dr. Makoto KIMURA

Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, Nagoya, Japan

Prof. Dr. Chun Gyeong YOON

Department of Environmental Science, Konkuk University,
Seoul, Korea

Dr. Shahid AHMAD

Natural Resources Division, Pakistan Agriculture Research
Council (PARC), Islamabad, Pakistan

Dr. Huang GUANHUA

Chinese-Israeli International Center for Training in Agri-
culture, China Agricultural University, Beijing, P. R. China

Dr. To Phuc TUONG

Crop, Soil and Water Sciences Division, International Rice
Research Institute (IRRI), Metro Manila, Philippines

Prof. Dr. Luis Santos PEREIRA

Institute of Agronomy, Technical University of Lisbon,
Lisbon, Portugal

Prof. Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Dr. Meredith GIORDANO

International Water Management Institute (IWMI), Co-
lombo, Sri Lanka

Prof. Dr. Tawatchai TINGSANCHALI

School of Civil Engineering, Asian Institute of Technol-
ogy (AIT), Pathumthani, Thailand

Prof. Emeritus Dr. Kenneth K. TANJI

Department of Land, Air and Water Resources, University
of California, Davis, U.S.A.

• Editing Board

Dr(Ms) Elizabeth HUMPHREYS

CSIRO Land and Water, Griffith, Australia.

Mr. Aly M. SHADY

Natural Resources Division, Canadian International Devel-
opment Agency (CIDA), Quebec, Canada

Mr. Brent PATERSON

Food and Rural Development Agriculture Centre, Alberta
Agriculture, Alberta, Canada

Dr. Satyanto Krido Saptomo

Department of Agricultural Engineering, Bogor Agricul-
tural University, Bogor, Indonesia

Prof. Dr. Ettore CAPRI

Institute of Agricultural and Environmental Chemistry,
Catholic University of Holy Heart, Piacenza, Italia

Prof. Dr. Aldo FERRERO

Department of Agronomy, Forest and Land Management,
University of Turin, Grugliasco, Italy

Prof. Dr. Akira GOTO

Department of Agricultural Environmental Engineering,
Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Dr. Yuji KOHGO

National Institute for Rural Engineering (NIRE), Tsukuba,
Japan

Prof. Dr. Masayoshi SATOH

Institute of Agricultural and Forestry Engineering, Univer-
sity of Tsukuba, Tsukuba, Japan

Prof. Dr. Kazuhiro TAKAGI

Department of Environmental Chemistry, National Insti-
tute for Agro-Environmental Sciences (NIAES), Tsukuba,
Japan

Prof. Dr. Joong Dae CHOI

Division of Agricultural Engineering, Kangwon National
University, Chuncheon, Korea

Prof. Dr. Jin Soo KIM

Department of Rural Engineering, Chungbuk National
University, Cheongju, Korea

Dr. Song-Bae KIM

Department of Landscape Architecture and Rural System
Engineering, Seoul National University, Seoul, Korea

Ir. Dr. M. S. M. AMIN

Department of Biological and Agricultural Engineering,
University Putra Malaysia, Serdang Selangor, Malaysia

Prof. Dr. Tahir HUSSAIN

Faculty of Agriculture, University of Agriculture, Faisala-
bad, Pakistan

Prof. Dr. Muhammad LATIF

Centre of Excellence in Water Resources Engineering
(CEWRE), University of Engineering and Technology, La-
hore, Pakistan.

Prof. Dr. Heping HU

Department of Hydraulic Engineering, Tsinghua Univer-
sity, Beijing, P. R. China

Prof. Dr. Jiesheng HUANG

College of Water Resources and Hydropower Engineer-
ing, Wuhan University, Wuhan, P. R. China

Prof. Dr. Yuanhua LI

National Center of Irrigation and Drainage Development
(NCIDD), Ministry of Water Resources, Beijing, P. R.
China

Dr. Jifu YANG

Department of Irrigation and Drainage, China Institute of
Water Resources and Hydropower Research (IWHR) Bei-

jing, P. R. China
 Dr. (Ms) Kam Suan PHENG
 Social Sciences Division, International Rice Research Institute (IRRI) Metro Manila, Philippines
 Prof. Dr. Ming-Hsi HSU
 Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China
 Dr. Ming-Hua TSAI
 Department of Irrigation and Engineering, Council of Agriculture Executive Yuan, Taipei, Taiwan, Rep. of China
 Prof. Emeritus Dr. Ru-Yih WANG
 Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China
 Dr. David MOLDEN
 Irrigation and Water Resources Program, International Water Management Institute (IWMI), Colombo, Sri Lanka
 Mr. Jean-Luc SAUTIER
 Swiss Federal Office for Agriculture, Berne, Switzerland
 Dr. Banha KWANYUEN
 Faculty of Engineering, Kasetsart University, Nakhonpathom, Thailand
 Dr. Varawoot VUDHIVANICH
 Faculty of Engineering Kamphaengsaen, Kasetsart University, Nakhonpathom, Thailand
 Dr. James E. HILL
 Department of Plant Science, University of California, Davis, U.S.A.

Prof. Emeritus Dr. Gilbert LEVINE
 Center for International Studies, Cornell University, Ithaca, U.S.A.
 Dr. V. R. REDDY
 Alternate Crops and Systems, USDA-ARS, Beltsville, U.S.A.
 Dr. Lawrence J. SCHWANKL
 Department of Land, Air, and Water Resources, University of California, Davis, U.S.A.
 • Managing Editors
 Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG
 Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea
 Dr. Yutaka MATSUNO
 Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan
 Dr. Masaru MIZOGUCHI
 Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan
 Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE
 Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan
 Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG
 Department of Bioenvironmental System Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China
 出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)
 投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。
 投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します

農業土木学会誌編集委員会

74巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社)農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

学会誌 74 巻の小特集・特別企画のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1 500 字以内)	原 稿 締 切 (刷り上げ 4 ページ厳守)
74 巻 5 号 農業土木の国際化のあゆみ (仮)	公募終了	平成 17 年 12 月 15 日
6 号 関東地方の農業農村整備事業 (仮)	公募なし	
7 号 湿原・湿地の管理と環境保全 I 湿地の特性と湿原保全のための湿原管理	公募終了	平成 18 年 2 月 15 日
8 号 湿原・湿地の管理と環境保全 II 湿地としての農地管理	公募終了	平成 18 年 3 月 15 日
9 号 圃場整備と農業生産法人 (仮)	平成 18 年 2 月 24 日	平成 18 年 4 月 14 日
10 号	公募なし	
11 号 環境配慮とモニタリング (仮)	平成 18 年 4 月 25 日	平成 18 年 6 月 15 日
12 号	公募なし	
75 巻 1 号 学会誌の愛称について (仮)		

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業土木学会ホームページに掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、
「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

74 巻 11 号テーマ：「モニタリング技術の最前線」(仮)

近年、さまざまな分野の技術革新により、測定技術が飛躍的に向上しています。たとえば、構造物の非破壊検査技術や、大気や水・土
壌中の微量物質を対象とした計測技術の発展により、計測時間の大幅な短縮化やより高精度のデータ取得、または観測衛星を利用した測
定技術の進歩により広域的かつ高頻度のデータ取得が可能となっています。さらには、フラッシュメモリ等の記憶容量の向上により、
長期的な連続データの観測も容易になっています。

農業土木分野においても、これまで計測できなかった高精度のデータや高頻度のデータ取得が可能となったことで、大きな技術的発展
が期待されるところです。そこで、最先端の測定技術を用いた計測やモニタリング事例、およびその結果を用いた最先端の技術事例につ
いて報文を募集します。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募
集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコー
ナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、**「技術者継続教育」**・**「技術力
の向上」**・**「技術者倫理」**など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取り組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるも
のを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり 1 ページ (1 800 字程度) で、写真を 1 ~ 2 枚程度入れてください。

「私の勤める本」は、原稿の長さ：1 200 字 (写真・体裁等含む)

刷り上がり 1 ページ以内 (原稿には表紙の写真を含めて下さい。)

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「農業土木学会誌」平成 19 年秋季～冬季用の表紙写真の募集

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成 19 年も皆さまからの写真で表紙を飾ることとしました。テーマは「水利遺構：先人たちの技術と苦
労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第 75 巻 (平成 19 年 1 ~ 12 月号) のうち、特
に秋季～冬季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えて
きました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を
制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むこと

で、その美しさに磨きがかかってきます。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」を、学会誌の表紙写真で紹介ください。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定し、撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、そのことを明記してください。

3. 枚数

応募写真には制限がありませんが、未発表のものに限りです。

4. 締切 平成 18 年 3 月 31 日（秋季～冬季の写真）

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、今年は募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となり

ます。

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選びます。

7. 結果発表

学会誌 75 巻 1 号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成 19 年度大会会場でパネル展示します。

8. 賞品

入選作品 1 点につき 3 万円（表紙掲載料含む）。応募者には記念品をお送りします。

9. 応募資格

学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧めください。

10. その他

応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）を記入して下さい。対象物の名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明（いつ、だが、どうして等）もお寄せ下さい。

原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。

11. 宛先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 - 34 - 4 (社) 農業土木学会
農業土木学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

新シリーズ「水利遺産探訪」スタート 皆様のご投稿を大募集中！ 農業土木学会編集委員会

農業土木学会誌ではこのたび新シリーズ「水利遺産探訪」を開始し、第 1 弾として会員の松本（独）農業工学研究所理事が投稿された「(京都の) 桂川「一の井堰」物語」を掲載することとなりました。つきましては、本シリーズに掲載する原稿を広く会員の皆様から募りたいと考えておりますので、奮ってご投稿いただくようお願い申し上げます。

わが国では、古来、先人の知恵と努力により多くの農業土木に関係した水利施設が造成されてまいりました。「温故知新」という言葉がありますが、「農業土木」を改めて知るために、ふるき水利遺産をたずね、先人の歩んだ道をふりかえることは重要なことであると考えています。そして、ふるき水利遺構にこめられた先人の「水土の知」を、未来で活かしていくための「未来へのメッセージ」としてまとめたいと考えております。

また、海外協力の分野においては、土地改良区を中心とする日本の灌漑排水システムが良きモデルとして注目されており、海外で日本の経験を如何に適應させるかが求められています。そのためにも、我々の先人の知恵と経験を他国で活用できるように整理することが必要になっていきます。

農業土木学会では、過去、「水土を拓いた人びと」を発刊した他、石狩川、北上川等の各水系農業水利誌（史）を発行してまいりました。今回のシリーズでは、幅広い会員の方に親しまれる内容のものを狙いたいと考えており、取り上げる内容についても、構造物だけに限らず計画や人物などに焦点をあてたものも含めて幅広いものにしていきたいと考えております。

ご投稿は会員の皆様が書きやすい任意のテーマでお願いします。シリーズ名は「水利遺産探訪」ですが、「排水」や「干拓」に関連したものや、比較的最近のものを扱っていただいてもかまいません。お近くや過去携わったことのある水利施設等をテーマに気軽にご投稿下さい。

なお、投稿は何時でも受け付けておりますが、今回の京都の次は「江戸の水利遺産・遺構」がテーマのものを先ず掲載したいと考えています。分量の制限はございませんが、分割して掲載させていただくこともありますので、あしからずご理解頂ければ幸いです。

皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

国際水田・水環境工学会 2006 年（第 4 回）国際研究集会の開催について
テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理（ ）

PAWEES 2006 (4th) International Conference

On Management of Paddy and Water Environment for Sustainable Rice Production ()

農業土木技術者継続教育認定プログラム申請中



主催：国際水田・水環境工学会

PAWEES; International Society of Paddy and Water Environment Engineering

共催：農業土木学会，韓国農工学会，台湾農業工程学会

趣旨

国際研究集会 [持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理] は，周辺環境との調和に配慮した持続的水田水管理の適切な技術とその応用に関する最新の研究についての情報交換を目的として，以下の内容の下に開催されることとなりました。

1. 水田のエコロジカルサービス向上への実践および政策枠組み
 キーワード：実施事例，機能定量化，社会・経済性評価など
2. 流域レベルにおける水田稲作を中心とした統合的資源管理
 キーワード：土地利用計画，資源の高度利用，参加型管理など

研究集会では，最新の研究成果の発表および情報交換を行うことにより国際的見識を深めるとともに，水田・水環境分野における今後の重点研究課題を抽出し，将来の国際的研究の方向性を議論します。さらに，過去の研究成果をいかに実社会に還元していくかの方法論を議論し，食料安全保障や発展途上国の貧困と飢餓の撲滅および農村の発展に貢献していくための方策を探ることとします。

また，日本の研究者・技術者が過去に築いてきた関係国・地域，関係研究機関等との連携を強化し，その他諸国の広汎な連携を推進することも意図しています。

主催学会の PAWEES は 2003 年 1 月に設立されました。設立の主な目的は，第 3 回世界水フォーラムでも議論された水問題，なかでも非常に重要な役割を果たしている水田農業を，流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直すとともに，環境や人口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取入れた新しい技術・学術体系として水田農業工学を確立し，その国際化を図ることが重要であるとの認識に由来しているものです。

水田・水環境に関連する研究・技術に携わっておられる方々にとっては，意義のある研究集会です。奮って参加されますよう，お知らせいたします。

1. 日 時：2006 年 8 月 10 (木) ~ 11 日 (金)
2. 場 所：宇都宮大学農学部
3. テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理 ()
4. 講演発表の募集

下記内容に即した講演発表を募集します。

1. 水田のエコロジカルサービス向上への実践および政策枠組み
 (キーワード：多面的機能，実施事例，機能定量化，社会・経済性など)

2. 流域レベルにおける水田稲作を中心とした統合的資源管理
 (キーワード：水・土地資源管理，土地利用計画，資源の高度利用，参加型管理など)

講演発表を希望する場合は，平成 18 年 4 月 16 日 (日) までにアブストラクトを提出する必要があります。選考委員会によってアブストラクトは審査され，その採否を発表希望者にご連絡いたします。

アブストラクトの提出は，

Web サイト：www.jsidre.or.jp/pawees2006 から申込用紙をダウンロードして，必要事項を記入し，E mail:pawees2006@jsidre.or.jp へてお願いいたします。

アブストラクトは，英 250 語以内 (表題，所属，氏名を除く) です。

使用言語は，英語です。

5. 主要なスケジュール

1) 講演原稿

アブストラクトの受付開始：平成 18 年 3 月 20 日 (月)

アブストラクトの提出期限：平成 18 年 4 月 16 日 (日)

原稿採択通知 (E mail) : 平成 18 年 4 月 26 ~ 30 日

採択原稿の提出期限 : 平成 18 年 6 月 30 日 (金)

2) 参加登録：

登録期間：平成 18 年 3 月 20 日 ~ 6 月 10 日

(定員に余裕がある場合のみ，研究集会当日に可能)

参加登録費：5,000 円

講演要旨集は研究集会当日にお渡しします。

6. 問い合わせ先

松野 裕 (PAWEES 2006 事務局長)

近畿大学農学部国際資源管理学科

〒631 8505 奈良市中町 3327 204

メールアドレス：matsuno@nara.kindai.ac.jp

吉武 幸子 (農業土木学会出版編集部)

(社) 農業土木学会事務局

〒105 0004 東京都港区新橋 5 - 34 - 4

農業土木会館 3 階 1 号室

メールアドレス：pawees2006@jsidre.or.jp